

国営讃岐まんのう公園管理運営ビジョン検討委員会

(第1回)

<議事要旨>

■開催日時：令和6年9月12日（木）10時00分～12時00分

■会場：高松市サンポート合同庁舎南館6階会議室（高松市サンポート3-33）

■主な意見：

1. 説明事項

(1) 説明事項①管理運営ビジョンについて

- ・本委員会では、本公園への「コンセッション方式」の導入を見据え、世の中の動きを見通しながら公園のあるべき姿について、考えていきたい。

2. 審議事項

(1) 審議事項①まんのう公園の現状・課題

審議事項②まんのう公園を取り巻く社会情勢

- ・若年層の集客や園内における消費機会の拡大のためには、先進事例を参考にするとともに、ゾーン全体の魅力を活かせるよう、民間事業者側にもアイデアを出してもらおうとよい。
- ・入園料の設定について、高額になり過ぎてはいけないので、民間事業者だけの判断とにならないような仕組みを取り入れるとよい。
- ・本公園内には、公園供用後に国交省が整備した施設や、公園供用時からある活かすべき資源も多くあるため、それらをピックアップし、ニーズと組み合わせることを考えてもらいたい。
- ・本公園では、ガイドがついた安全な環境の中で自然体験ができるため、自然体験と教育をセットにした仕組みを県内の学校に展開していくことが重要と考える。
- ・本公園では、里山や貴重な動植物、自生している花などの本物の自然環境を磨いて観光資源にするとともに、それらを地域の人々だけでなくインバウンドの人々にも知ってもらう活動を、民間企業の ESG 投資の対象として着目してもらうことが重要と考える。
- ・世の中のニーズや人々の活動の変化をとらえ、管理運営ビジョンに取り込むとよい。

(2) 審議事項③まんのう公園において活かすべきもの（案）

- ・まんのう町では満濃池の外周に散策路を整備したが、散策路の距離が長いことやボランティアガイドもないことから、うまく活かせていないため、今後まんのう公園と連携をしていきたい。また、現況大規模イベント時のまんのう公園近辺の道路渋滞により、地元住民の移動に支障が出ているなか、今後コンセッション方式を導入した際の地元行政との連携面に不安がある。
- ・本公園に観光客を呼び込むためには、ここでしか体験できないものが必要だと思う。例えば、現在行われている夜間のライトアップイベントに民間事業者の力を借りて有効

に活用するアイデアを検討いただきたい。また、将来的には自動運転バスなど公園までのアクセスについても検討できればと思う。

- ・現状の利用実態データを見ると、中央広場ゾーンが最もにぎわっていると読み取れるが、本公園の特色である自然活用ゾーンや湖畔ゾーンをアピールしていくことが重要と考える。そのため、満濃池を含めた自然を活かしたPRを積極的に行うとともに、自然活用ゾーンや湖畔ゾーンへアクセスしやすい施設配置を検討いただきたい。
- ・本公園の本質的価値としては、自然活用ゾーンや湖畔ゾーンが、非常に重要であり、湖畔ゾーンでワーケーションをするなど、自然とのふれあいの方法を十分に考えることが重要と考える。
- ・県立満濃池森林公園においても公園の活性化について検討している中で、満濃池を含む周辺一帯を観光資源として、国・県・町で周遊・イベント連携をできれば良いと考えている。
- ・広大な公園敷地の維持管理に膨大な費用がかかっているのではないかと。県内には、自然を活用した場所は他にも多くある中で、入園料を払ってまで利用したい需要があるのか疑問である。

(3) 審議事項④ニーズ調査の方針（案）

- ・公園来訪者に対する利用満足度アンケート調査の結果も活用してほしい。
- ・LAND 分析の 4 つの層のうち、今まで利用するはずのなかった Non 層の人々の意見が聞けるような方法を検討すべき。
- ・湖畔ゾーンや自然活用ゾーンについては、ボランティアに参加した人など各ゾーンの利用者を対象に点でインタビューをすることで何が問題か明確になるのではないかと。
- ・Web モニターアンケートだけで、LAND 分析を有効に行えるような適切な回答は得られるのか。L 層、D 層については、無作為に確認するよりも来園者の生の声を反映することで補足した方が有効と考える。
- ・WEB アンケート調査だけでは、本音の回答が得られるか懸念がある。四国内・県内在住者や実際に利用した方の生の声が、今後ビジョンを検討する上で重要と考えるため、公園管理者の実施している利用者アンケートや各委員の所属先にご協力いただくなど、まず利用者のニーズをしっかりと押さえて、不足する部分を WEB アンケート調査で補完することが重要だと考える。

3. その他

- ・ゾーンの位置づけを超えた柔軟な検討も可能であることを今後示していくべきと考える。

■今後の進め方：

- ・上記のご意見を踏まえ、第2回検討委員会に向けて検討を進める。(事務局)

以上